

BCAO福井グループ 第 11 回勉強会 議事録

1. 勉強会概要	
開催日	2008年8月21日(木) 午後6:00～午後8:45
場所	福井県中小企業産業大学校 第一演習室
議長	井上 (サイエンスクラフト)
議事録作成者	井上 (サイエンスクラフト)
出席者氏名	9名 ◎中谷(富士通エフサス)、◎長谷川(ふくい産業支援センター) ◎吉田(富士通エフサス)、◎高橋(フクビ化学)、福島(フクビ化学) ◎井上(サイエンスクラフト)、◎中山(KSTワールド)、◎中西(カネ伊)、山上(北陸通信ネットワーク) (◎は個人会員)
次回勉強会日時	2008年9月11日(木) 午後6:00～8:00 (内容未定) 福井県中小企業産業大学校 会員は参加費なし、会員外は1,000円/人
2. 勉強会	
<p>(株)富士通エフサスの中谷明男さんによる「富士通インフラサービスグループの BCM 取り組みについて～安全で安定した状態でサービスを提供するために～」と題した講演をしていただいた。主な講演内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 企業経営と災害リスク 企業を取りまくリスクが増大しており、BCMの領域である災害事故リスクも複雑多岐化している。新型インフルエンザの危険性が増しており、取引条件にBCPを要求する大手バイヤーも出現している。また、企業評価の指標も、製品・サービスの評価から企業の健全性や供給安定性に対する評価に変化してきている。 ■ 標準化の動向 日本でもBCP標準化の動きが政府省庁主導で進められているが、国際規格化の動きもある。富士通は、英国規格BS25999の認証登録をした。認証のメリットは大きい。 ■ 事業継続マネジメントとは 従来の防災対策と事業継続は違う。BCPは事業継続を実現するための計画書であり、BCMは事業継続計画を実行するための経営管理手法である。 ■ 策定のポイント 事業継続戦略策定の流れは、まず、重要業務の業務プロセスとリソースを整理してBIAを実施し、RTOを決める。次に、リスクアセスメントおよびギャップ分析をし、事業継続戦略を策定する。 ■ 緊急時の対応手順 災害が発生した場合の対応手順を整理しておく。緊急時の組織体制と対策本部の業務内容を決めておく。また、各ステークホルダーとの緊急時のコミュニケーション手段を確保しておく。人命の安全を確保し、全社共通の災害対策HPにより客のシステムの被害状況や復旧状況を全社共有し進捗管理する。 教育訓練も合わせて実施する。 ■ 文書構成 事業継続計画の策定内容は、事業継続計画書として文書化される。例えば、事業継続要件分析書、事業継続戦略定義書、教育訓練計画書、事業継続マネジメント計画書、緊急時対応手順書、事業復旧手順書、システム復旧手順書などから事業継続計画書は構成される。 BCPをPDCAサイクルでまわしてBCM(事業継続マネジメント)を有効なものにする。 	
3. その他の話題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 福井県内自治体のIT系BCP策定の可能性について ・ 福井県内企業BCP策定の動きは鈍い。 ・ 講師の中谷さんはBCAOの理事でもあるので、BCAO福井の活動内容を本部に報告してBCAO福井の活動費支給の道を開いてほしい。 ・ 最近、テーマが枯渇気味のBCAO福井の活動に対し、中谷さんからBCP策定経験のあるBCAOメンバーを講師に迎えるよう教示があった。 	